

2. 事業の概要と成果	
(第1年次完了報告書)	
(1) 上位目標の達成度	<p>(ア) 簡易整備・点検研修施設の建設および教育用検査機器の設置を完了し、東ティモールの自動車検査機能の整備に必要な検査員養成のための基盤を確立した。(達成率 100%)</p> <p>(イ) 自動車検査場職員 5 名に対し自動車整備事前教育を実施し、検査員教育の準備を整えた。(達成率 100%)</p>
(2) 事業内容	<p>(ア) コモロ自動車検査センター内に簡易整備・点検研修施設を計画の通り建設した。</p> <p>(イ) 研修施設内に自動車検査機器としてサイドスリップテスター（直進時のタイヤの横滑り量を計測する装置）およびライトテスター（自動車のヘッドライトの光度と光軸を計測する装置）を設置した。</p> <p>(ウ) コモロ自動車検査センターの 5 名の研修生に対する整備事前教育として基礎的な自動車工学の研修を計画通り座学で実施した。</p> <p>(エ) ディリ市内の主要な民間工場の自動車整備・点検能力を把握した。</p> <p>(オ) 研修で使用するテキスト、教材を準備した。</p> <p>(カ) 次期研修員募集の準備を実施した。</p>
(3) 達成された成果	<p>(ア) 簡易整備・点検研修施設は設計段階から竣工まで全期間にわたり東ティモール当局との調整、施工業者に対する指導および現場での作業監督を継続的に実施したほか、日本の一級建築士による 3 回の現地指導を受けたことにより、事業目的に合致した施設建設を達成した。完成した研修施設においては事務所兼教場、器材庫および実習教育に必要なスペースが確保され、次期事業での 15 名の研修生に対する教育環境が整備された。</p> <p>(イ) 検査機器（ライトテスターおよびサイドスリップテスター）の設置により、計器測定による検査の実習教育準備が整えられた。</p> <p>(ウ) 整備事前教育において、コモロ自動車検査センターの 5 名の研修生に対し自動車工学の基礎的知識（基礎自動車工学・工具・シャシ）を付与したことにより、円滑に研修を開始するための素地が整えられた。</p> <p>(エ) ディリ市内の民間工場 4 社（ドラゴンサービス、ベンディクスサービス、オートティモールレステ、オートビジョン）の自動車整備・点検能力、特に整備士の人数、整備・点検機器の状況を把握できた。電子制御を用いた自動車の修理の習得および修理部品の入手が難しく、また、定期点検の重要性を顧客に呼び掛けているものの、顧客である東ティモール人には理解されていないことが課題である。</p> <p>(オ) 国の検査能力と両輪をなす民間の整備能力のレベルの把握は重要であり、ディリにおいてはこれを達成出来た。</p> <p>(カ) テトウン語の検査員養成研修テキストおよび整備教育用テキストが完成し、研修準備を整えた。</p>

	<p>(キ) 次期事業の研修員募集の準備として、雇用政策・職業訓練担当国務長官官房（SEPFOPE）には公務員の研修員募集を依頼し、次官からは協力する旨の回答を得たので、5名の公務員研修員は確保できる見込みである。民間からの研修員募集は、主要民間整備工場3社とディリ技術学校に対し研修生募集を説明、勧誘するとともに募集のチラシを配布して広報につとめた。整備工場からは今後検討する旨の回答があったが、ディリ技術学校からは2名参加させたいとの前向きな要望が寄せられたため民間の研修員5名は確保出来る見込みである。</p>
(4) 持続発展性	<p>(ア) 簡易整備・点検研修施設は次期事業間、検査員養成研修の教場、実習場として活用される。検査場に付帯するにふさわしい検査機器を設置したことで、将来的に車検不備車の簡易整備所となる見込みである。</p> <p>(イ) 設置した検査機器は次期事業間、自動車整備教育および検査員養成教育の双方において実習器材として活用される。</p> <p>(ウ) 3期終了後に、検査員の技術レベルを向上することで、やりがいをもって仕事に従事するようになる。その第一歩として1期事業では、安全な自動車社会を構築する一員として、研修員に車検員としての自覚と誇りを植え付けた。</p> <p>また、引き続き次期事業間研修に参加することで、車検員に必要な知識と技能を習得する。</p>